

送迎者、被送迎者間のストレスに関する調査

岩手県立大学 正会員 元田 良孝
岩手県立大学 正会員 宇佐美誠史
YKK AP(株) 古関 潤

1. はじめに

公共交通の発達していない地方部では、運転免許や車を保有しない高齢者や学生は外出時に家族間、知人間で送迎をされることが多いものと考えられる。公共交通を利用しない理由に、送迎してくれる人がいることをあげる者も少なくない。従って独居老人が少なく、家族の支援が得られる地域では公共交通は不要と考えてよいのだろうか。一般に人に何かを依頼することは人間関係がうまくいっていないとストレスになりやすいものと考えられる。本調査では、今まで殆ど研究が行われていなかった公共交通の不便な地方部での送迎者、被送迎者間でどのような心理的關係があり、どのような金品のやり取りが行われているかを調査し、送迎に関する心理的な関係を考察する基礎資料とすることが目的である。

2. 調査方法

岩手県雫石町では平成 16 年度 4 月からデマンドバスである「あねっこバス」¹⁾を運行している。本調査はあねっこバスに登録している利用者から 1,000 名を抽出し平成 17 年 12 月にアンケート調査票を郵送した。同封した調査票は 2 種類あり、1 つは利用者本人に記入してもらうもの(A 票)、1 つは利用者がよく送迎を依頼する者に渡してもらうもの(B 票)で別途記入して別々に郵送していただいた。質問項目は送迎を依頼したりされたりした時に配慮していること、ストレスの有無、金品のやり取りはあるかなど送迎、被送迎時の問題と、ここでは紙面の関係で省略するがあねっこバスの評価、健康への影響、属性などとなっている。回収数は A 票が 384 票、B 票が 182 票で回収率はそれぞれ 38.4%、18.2%であった。

キーワード：公共交通、送迎、心理的關係

〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字巣子 152-52

電話：019-694-2732

FAX：019-694-2701

E-mail:motoda@iwate-pu.ac.jp

3. 調査結果

(1) 属性

A 票の回答者は男性 27%、女性 61%で圧倒的に女性が多い。B 票は男性 45%、女性 47%でほぼ男女半々である。A 票は 75%が 60 歳以上であるが、B 票では 35%と少なくなり、高齢者の女性を比較的若い人が送迎していることが明らかである。被送迎者と送迎者の関係は 78%が家族であり、親戚は 3%、近所の知人・友人は 6%と少なく、家族が送迎の主体で多くは息子や嫁が母親を送迎していることが推測される。

(2) 送迎依頼時のストレスの有無

被送迎者の 42%が送迎を依頼するときにストレスを感じており、送迎を依頼される者の 32%がストレスを感じている。依頼する方だけでなく依頼される方もストレスを感じていることが明らかであり、さらに依頼する方がされる方よりもより多くストレスを感じていることが分かる(図 1)。

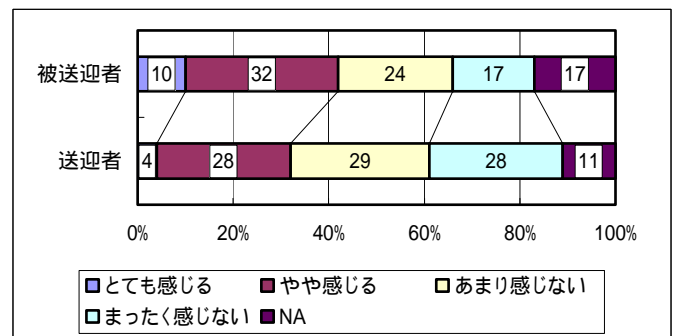


図 1 ストレスの感じ方

ストレスの内容を図 2 に示すが、依頼する側は「自分が自由な時間に移動できないから」「相手に気兼ねするから」「費用を気にするから」「交通事故が怖いから」などであり依頼される側は「自分の時間が拘束されるから」「交通事故が怖いから」「ガソリン代を気にするから」と殆ど同様な内容となっている。しかし相手への気兼ねの割合は送迎者と被送迎者で異なっているが、これは依頼する者とされる者の心理的な立場の違いから生じているものと考えられる。

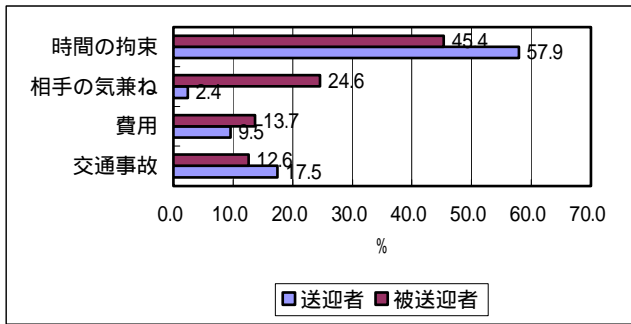


図2 ストレスの内容

(3) 依頼するとき気をつけていること

送迎を依頼するとき気をつけていることは、「相手に仕事がないときに頼む」「緊急な用事があるとき」「相手についで用事があるとき」などいつでも自由に送迎を依頼できない事情が推察され、上述のストレスの内容と一致している。一方送迎を依頼される側で気をつけていることは、「特になし」が最も多いが、「緊急な用事があるとき」「仕事がないとき」など依頼する側と同じことに気をつけていることが明らかとなった。

(4) お礼について

送迎を依頼するときにお礼を渡しているかについて聞いた。被送迎者では、お礼を渡す頻度は「毎回渡している」は6%で、「たまに渡している」「年数回渡している」を入れると40%が何らかのお礼を渡している。一方送迎を依頼される側では何らかのお礼を受け取っているとした者は22%と約半分であり、依頼する者とされる者の意識の差が現れているものと考えられる(図3)。

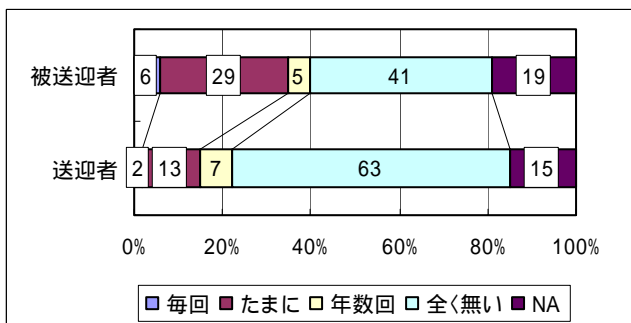


図3 お礼の授受頻度

お礼の内容は送迎される者の回答では飲食物、お金、作業などとなっており、送迎者とほぼ同様である(図4)。さらにお金をあげている者に金額を聞いた(表1)。回

答数はあまり多くなかったが、いずれも1,000円が最頻値であった。一般に同額でも硬貨より紙幣の方が価値が感じられること、最小単位の紙幣が1,000円であることから1,000円が選ばれているものと考えられる。

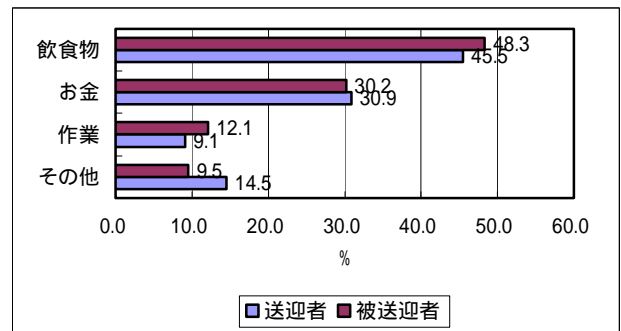


図4 お礼の内容

表1 御礼の金額分布(人)

金額	被送迎者	送迎者
200円	2	-
300円	-	1
500円	1	3
1,000円	10	6
1,500円	1	1
2,000円	2	-
3,000円	-	2
5,000円	1	-
10,000円	2	2
計(人)	19	15

4. まとめ

今回の調査で送迎を依頼する者ばかりでなく送迎する者でも少なからぬストレスが生じていることが明らかとなった。送迎者の殆どが家族であったが、家族の間でもお礼として金品や労力の提供が行われている場合もあることが分かった。紙面の都合で紹介できなかったが、A票の回答者はあねっこバスが運行されてから送迎の回数が減少し、健康面が改善した者が増加している。これは昨年度の調査でも同様な傾向は見られた²⁾が、自由に使える公共交通ができたことで依頼のストレスが減少し、健康が改善されたものと推測できる。このことは公共交通の間接的効果と考えられ、今後は公共交通と健康についてさらに調査を進めてゆきたい。

参考文献

1) <http://www.town.shizukuishi.iwate.jp/kurasi/buss/index.htm>
 2) 元田良孝他：DRT(デマンドバス)に関する幾つかの考察、土木計画学研究・講演集、Vol.31、CD-ROM 2005